

杉並でサッカー！ すごい幼稚園から大人まで



東日本大震災で人々の心も落ち着かず、なんとなく曇っていた2011年7月、世界中がビックリ、日本女子サッカーチームがワールドカップ優勝、という快挙をとげた。

日本自体はサッカー後進国といっても良いレベルだが近年のプロ選手の活躍はめざましい。今後さらに競技人口もふえ、盛んになっていくであろう競技だが広大なグラウンドの確保など都心でサッカーをするには、まだまだ課題も多い。

今回は東京の中央に位置する杉並区では、どのようにサッカーを楽しめるのだろうか、現在どのようにサッカーファンがいるのか、F C 東京は杉並区とどんな関わりがあるのか、などまとめて取材した。

サッカーの歴史

サッカーに似たゲームは、古代中国のクジュと呼ばれたゲームや、日本の蹴鞠のほかに、ギリシャやローマにもあったと伝えられるが発祥は定かではない。19世紀前半にはイギリスパブリックスクールの競技ルールがバラバラだったため1863年、イングランドにフットボールアソシエーション(F A)というサッカー協会が設立されルールが統一された。この協会が定めたルールが近代サッカーの基礎となったことから、イギリスは「近代サッカー発祥の地」と呼ばれている。

世界への広がり

イギリスサッカー協会設立後、イギリスでは産業革命の影響もあって海外進出が盛んになり、外国へ出かけた船乗りや商人、技術者たちは、行く先々で現地の人たちを集めサッカーを楽しんだ。こうして、あっという間に世界中にサッカーが広まっていったのも、グラウンドとボールさえあれば成り立つ手軽なスポーツであったことも原因していると思われる。

出典「Q & A 式 しらべるサッカー 3 サッカーの歴史」ベースボールマガジン社編集・出版

近年の日本サッカー

1992年に10のプロクラブが参加する日本三大タイトルのひとつ「ナビスコ杯」が開始。その年のアジアカップで初優勝し、一気にアジアのトップに躍り出た。プロリーグも始動したが、94年の第15回ワールドカップ(以下W杯)アメリカ大会のアジア予選では、あと数十秒で出場権獲得というところで対戦相手のイラクに同点ゴールを許し、出場権を逸してしまった(ドーハの悲劇)。

第16回W杯フランス大会(1998年)では、アジア最終予選において、日本はイランとの激しい点の取り合いの末、延長戦で決勝ゴールを決め、ついにW杯出場権を獲得したが3敗して、グループリーグで敗退した。

第17回W杯日韓大会では、本大会の予選リーグを突破し決勝リーグに進出するも、第18回のドイツ大会では予選リーグ敗退。

2010年の第19回W杯南アフリカ大会では、決勝トーナメントに進出し、ベスト16という結果を残した。

日本サッカーの発祥

1873年(明治6年)、海軍兵学寮(海軍兵学校の前身)の教師として来日したイギリス海軍のダグラス少佐とその部下たちが、日本の軍人にサッカーを教えたのがはじまりだと言われている。その後、学校教育に体育を広めるためにつくられた体操伝習所(現在の筑波大学)で、屋外運動のひとつとして学生にサッカーが教えられ、それが次第に発達していった。

Jリーグ

1968年のメキシコオリンピックで銅メダル獲得以降、盛り上がりを見せたものの国際試合になかなか勝てずに、次第に国内サッカー熱も冷めていった。1986年、JSL(日本サッカーリーグ)はプロ選手の登録を認める大改革に踏み切り、1988年にプロリーグ設立の検討を本格的に開始、1993年Jリーグが開幕した。

出典「ワールドサッカーパーフェクトガイド」Martin Cloake著・ポプラ社刊

「Q & A 式 しらべるサッカー 3 サッカーの歴史」ベースボールマガジン社編集・出版